



2020年4月1日(水)発行 【季刊誌(年4回)発行】

発行部署 : 陸運事業本部 企画管理部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 長野 洋三
お問合せ窓口 : 岩下 慎一郎

春号

(No.142)

【目次】

1. 長野新部長 就任のご挨拶
2. JILS 2019年度物流コスト調査結果(速報値)を公表
3. 国交省 異常気象下における輸送の日安定める
4. MCLC LIFEグループ 2019年度「物流効率化」提案実績
5. 資格のひろば ~物流資格あれこれ~ フォークリフト免許
6. 倉庫におけるAI活用セミナー参加レポート
7. 2020年度前半 物流関連展示会のご紹介

1. 長野新部長 就任のご挨拶

取締役兼執行役員 陸運事業本部副本部長 兼 同本部 企画管理部長 長野 洋三

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、陸運事業本部企画管理部長に就任いたしました長野 洋三でございます。

物流環境では、人手不足は解消されず、引き続き厳しい状況が続いていますが、当社は、新しいIT・物流技術の導入、働き方改革による環境変化への対応推進などで、サプライチェーン全体を見据えた総合物流ソリューションの提案、実務遂行能力の増強、サービスの高品質化に取り組んでいます。

私も長く勤務した三菱ケミカル社炭素部門や物流部、購買部での経験、言わば“荷主側からの着想”“業務改革への知見”を活かし、「安全・安定&効率物流」の実現は我らの使命という強い信念の下、『KAITEKI物流』の担い手として、今まで以上にお客様のご要望に真剣に対応、貢献する所存です。

新たな門出をお迎えの方も多い時季ですが、当社も今月から新たな組織へ以下の通り再編いたしました。より一層お客様のご要望に的確に対応できる体制を構築して参ります。



組織改正の概要

【陸運事業運営体制の再編】

従来のソリューション営業本部と陸運事業本部を新たな陸運事業本部として再編し、事業企画から営業活動までの一連の業務を遂行できる体制とします。

【海外事業運営体制の再編】

事業拡大および事業運営体制強化を目指し、従来の陸運事業本部フォワーディング事業部とソリューション営業本部海外事業統括部を統合し、海外事業本部とします。

【包装・資材事業運営体制の見直し】

従来西日本エリア営業部が担当した包装資材の販売業務を事業本部内に位置付け、販売の一貫管理体制を構築し、事業の効率的運営を推進します。

上記のほかに“各本部企画管理部の設置”“現場力強化に向けた技術管理および推進体制の見直し”などを併せて実施します。

2. JILS 2019年度物流コスト調査結果(速報値)を公表

日本ロジスティクスシステム協会（JILS）が、物流コストに関するアンケート調査結果（速報値）を公表しました。これは荷主企業（子会社を含む）を対象とした売上高物流コスト比率の平均値などを整理したものです。

売上高物流コスト比率の推移（全業種）をみると、2019年度調査（回答219社）の売上高物流コスト比率は4.91%（全業種平均）で、前年度からの減少幅は0.04ポイントでした。

2018年度調査では、物流事業者からの値上げ要請などを理由に売上高物流コスト比率が大きく上昇しましたが、2019年度は、ほぼ横ばいとなりました。直近10年間の調査結果と比較しても3番目に高い結果で、高水準を維持しています。

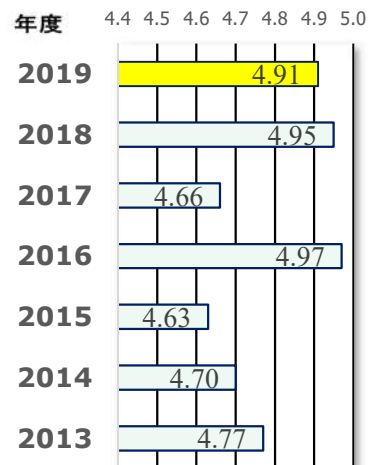
前年度比較が可能な「2年連続回答企業」（148社）では売上高物流コスト比率（全業種平均、速報値）は同0.07ポイント上昇の4.74%で、業種大分類別では製造業の上昇（同0.09ポイント）が最も大きくなりました。



本調査結果の確定値は、2020年4月に公表される予定です。

2019年12月公表

売上高物流コスト比率推移 (全業種) %



3. 国交省 異常気象下における輸送の目安定める

国土交通省は、台風などの異常気象時下でトラックによる輸送を行う場合に、輸送の安全を確保するための措置を講じる目安を定めました。

昨今の大型台風などの異常気象時において、トラック運送事業者が輸送の安全を確保することが困難な状況下で荷主に輸送を強要され、トラックが横転するなどの事故が発生しています。このような場合には、ドライバーの生命や身体が害されるおそれがあることはもとより、トラック運送事業者は行政処分を受け、当初の運行計画が崩れることにより、物流全体の効率性が損なわれ、持続的な物流機能にも影響が生じるおそれがあります。

今般、こうした状況を踏まえ、異常気象時における輸送の在り方の目安が定められました。



【異常気象時における措置の目安】

気象状況	雨の強さ等	気象庁が示す車両への影響	輸送の目安※
降雨時	20～30mm/h	ワイパーを早くしても見づらい	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	30～50mm/h	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	輸送を中止することも検討するべき
	50mm/h以上	車の運転は危険	輸送することは適切ではない
暴風時	10～15m/s	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	15～20m/s	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる	輸送を中止することも検討するべき
	20～30m/s	通常で運転するのが困難になる	
	30m/s以上	走行中のトラックが横転する	
降雪時	大雪注意報が発表されているときは必要な措置を講じるべき		
視界不良(濃霧・風雪等)時	視界が概ね20m以下であるときは輸送を中止することも検討するべき		
警報発表時	輸送の安全を確保するための措置を講じた上、輸送の可否を判断するべき		

※輸送を中止しないことを理由にすぐに行政処分するものではないが、輸送の安全を確保するための措置を適切に実施せずに輸送したことが確認された場合は行政処分を行う。

4. MCLC LIFEグループ 2019年度「物流効率化」提案実績

当社LIFEグループでは、2019年度も多くのお客様へ「物流効率化」の提案をさせて頂きました。

昨年度は、物流コストが高水準を維持していることを反映してか、配送拠点の検討や配送車両の必要台数についてのシミュレーションなど、輸送分野の検討が多い傾向にありました。また、事務系の業務や構内分野についても輸送分野と合わせて検討することで、部分最適ではなく、SCMとして全体的な最適化を考えたいといったご要望が多く聞かれました。

事務系業務の非効率さや管理の不十分さ、実務系業務における工程管理や安全管理といった部分の問題点を可視化するためには、現場業務に入り込んで調査を行う必要があります。そのため、より一層お客様と一体になった取組みが多くなりました。

今年度も、それぞれのお客様の抱える課題やご要望にお応えできるよう取り組んで参ります。

2019年度「物流効率化」提案実績（抜粋）

	提案先	物流規模		分野				検討人役	検討期間
		工場	倉庫	輸送	構内	仕組	在庫		
1	物流会社		1	○		○		1	3か月
2	食品メーカー	1		○		○		1	0.5か月
3	化学メーカー	8		○		○		1	2か月
4	化学メーカー	1		○				1	2か月
5	化学メーカー	1	3	○	○	○		2	8か月
6	化学メーカー	1	5	○		○		2	6か月
7	物流会社				○			2	3か月

※LIFEグループでは事務系を中心とした分野を「仕組」と表現しています

5. 資格のひろば ～物流資格あれこれ～ フォークリフト免許

このコーナーでは、物流（特に化学品物流）において馴染みのある資格に関して連載でご紹介しています。

今回ご紹介するのはいわゆる「フォークリフト免許」ですが、正式にはフォークリフト運転技能講習を修了することを表しています。「労働安全衛生法」で定められた国家資格で、最大荷重1トン以上のフォークリフトを運転することができます。

試験（講習）は各都道府県労働局長登録教習機関にて常時実施されています。最大5日間の講習で、合格率も国家資格としてはかなり高率とされ、「取得し易く業務にも役立つ」お得な資格とも言われているようです。

フォークリフトを運転する具体的な仕事としては、トラックへの貨物の積み下ろし、場内での荷物運搬、倉庫内でのピッキング作業などがあります。男性向きの仕事と思われがちですが、安全丁寧な操縦が求められる場面も多く、女性ならではのきめ細かさも歓迎されることから、女性の修了者も増えているようです。「トラガール（女性トラックドライバー）」ならぬ「フォーガール?!」も徐々に増えていくことでしょう。

【フォークリフト運転技能講習の概要】

項目	概要
試験頻度	常時
受講日数	最大5日間
受験資格	18才以上であること
試験方法	学科・実技
修了者数	年間およそ22万人

筆者の周りにも、事務系スタッフでありながら、免許を取得した人がいました。出荷ピーク時にフォークリフト運転手不足で積み込みのトラックを待たせたくないとの思いから一念奮起したそうです。彼は50代でもあり実技はなかなか上手く覚えられなかったそうで、「追加の補習で何とか合格した」と苦労を語っていました。

※最新情報は登録教習機関公式HPをご覧ください



6. 物流におけるAI活用セミナー参加レポート

1月23日に「物流におけるAI活用セミナー」に参加しました。聴講内容について概要をご紹介します。

1) 業界別にみたAI技術の導入トレンド

製造業：近年導入が盛ん（特に画像認識技術、製造最適化など）

医療現場：検査業務などで今後急速に普及が見込まれる

物流業界：あまり導入が進んでいない。ただし、今後社会的インパクトの大きいAI技術の導入が見込まれる。（トラック隊列走行、倉庫荷役や配送ロボット、ドローンなど）

2) 物流業界におけるAI活用事例

・運送経路（配車）最適化、倉庫需要予測（人員の最適配置）など最適化技術によく使用

・熟練者の予測や判断といったタスクのAIモデルをつくりシステム設計をする

3) AI導入の成否

・処理時間の大幅短縮に対して、精度どこまで要求するか？

・試行の回数やタイミングなど運用見直しでカバーできるか

・属人化業務をどこまで体系化、簡素化できるか



デスクワークなど皆さんの身近なところでも、AIが人に代わって、定型業務や検索、集計業務を実施するといった話を耳にするようになりました。必然的に実施している業務、経験則に基づくやり方など、AI導入とは別の視点でも一度点検する時期なのかもしれません。

7. 2020年度前半 物流関連展示会のご紹介

本年も物流に関連する数多くの展示会が開催予定です。下表にて今年度前半に開催予定の物流に関連する展示会の一部をご紹介します。

* 新型コロナウイルス感染状況変化などにより開催内容が変更になる場合があります。
最新情報・詳細は各展示会の公式HPをご覧ください

期間	展示会名称	会場
4/8～10	第29回 Japan IT Week【春】	東京ビッグサイト（東京）
4/15～17	名古屋 ものづくり ワールド 2020	ポートメッセなごや（名古屋）
5/13～15	ワイヤレスジャパン2020	東京ビッグサイト（東京）
5/13～15	運輸・交通システムEXPO2020	東京ビッグサイト（東京）
5/20～22	人とくるまのテクノロジー展2020	パシフィコ横浜（横浜）
5/28～30	ジャパントラックショー2020	パシフィコ横浜（横浜）
6/11～12	運輸・交通システムEXPO2020<大阪>	インテックス大阪（大阪）

編集後記

満開の桜が咲き並び、鮮やかな季節となってきました。私はこの季節もっぱら花粉との闘いですが、桜は大好きな花の一つです。思えば、桜はラグビー日本代表のエンブレムや東京五輪の聖火リレーのトーチなどに使用されており、昔から国民的人気を得ている花のようです。

4月の組織改正で営業と一体となった「陸運事業本部企画管理部LIFEグループ」となりました。今後もお客様の要望事項に応え、満足をして頂き信頼されるように日々精進していきます。皆様、今年度も宜しくお願い申し上げます。（HI）